

非鉄金属概況

日本鉱業協会 企画調査部

金

【海外】

1. 価格推移

11月相場	高値	安値
ロンドン相場(\$/toz)	: 1,304.55 (9日)	1,178.10 (30日)
国内建値(円/g)	: 4,389 (10日)	4,231 (14日)
為替相場(円/\$、TTS)	: 103.22 (9日*)	114.78 (25日)

*9日の為替相場は当初 106.67 で発表、急激な円高に伴い 103.22 に修正

11月の海外金相場は1日に\$1,284.40/toz(トロイオンス)と前月末よりやや反発してスタート、初旬は米大統領選の先行き不透明な状況を嫌った投資家が株式などのリスク資産から金へ資金を移した動きが表面化したことで、すぐに\$1,300台を回復し堅調な展開となった。同水準は約1か月ぶりの高値となった。

しかし、週明けの7日には、米大統領選を巡る不透明感が後退し、前週末発表の米雇用統計の結果によるドル高もあり、\$1,300台を再び割り込んだ。ところが、8日に投開票された米大統領選で、共和党のドナルド・トランプ候補が当選確定となったことから、9日にかけて急騰、同日前場では\$1,304.55をつけ、約1か月半ぶりの高値をつけた。ただ、その後は米株式やドルの対主要通貨での上昇が足かせとなり一転して続落、11日には\$1,236.45と6月初め以来5か月ぶりの安値となった。これにはトランプ新政権の誕生が決まり、米景気回復の期待が高まったことから、今までリスク回避で買われてきた金が売られ続けたことも背景にあった。

その後も金の軟調地合いは続き、18日には\$1,206.10まで後退、2月中旬以来9か月ぶりの安値となった。米連邦準備理事会(FRB)のイエレン議長が17日、議会証言で12月の利上げの可能性を示唆したことに加え、トランプ次期米大統領の減税案などで将来のインフレ観測が高まり、利上げペースが想定より速まるとの見方もマイナスに働いた。下旬入り後も、上記の利上げ観測が崩れなかったことでドル高が進み、金は続落、23日には\$1,185.35へ急落して、2月上旬以来の安値となった。しかし、28日以降はトランプ相場への一服感によるドル下落から戻したが、30日には再びドル高が進行し、\$1,178.10まで下げて越月した。

2. 為替相場推移

11月の為替相場は1日に\$1=105.79円(TTS相場、以下同じ)と円が小幅続伸してスタート、初旬は米大統領選を巡る不透明感を背景に「低リスク通貨」とされる円を買ってドルを売る動きが出たことで、やや円が反発して推移した。4日には\$1=104.02円と1か月ぶりの円高・ドル安水準となった。米国では、4日に10月の米雇用統計の結果が発表され、12月の米利上げを見込んだドル買いが出たものの、大統領選を巡る不透明感から低リスク通貨とされる円の下値は堅かった。

週明け7日には、米大統領選はクリントン候補に優位に働くとの見方が強まり、円売り・ドル買いが優勢となった。その基調は大統領選の8日、投開票の9日午前までは続いたものの、午後に米大統領選で共和党候補のドナルド・トランプ氏の優勢が伝わると、先行き不透明感が広がって「低リスク」とされる円の買いが促され、銀行間取引では一時\$1=101.19円と9月30日以来の高値を付けた。しかし、翌10日には、前日とは反対に、米次期大統領になることが決まったトランプ氏が財政出動を増やすとの思惑から米金利が上昇、日米金利差の拡大を見込んだ円売り・ドル買いが広がり、\$1=106.63円まで円が対ドルに対して後退した。トランプ氏が大統領選挙での勝利が決まった後の演説で過激な主張がなく、過度の不安が後退したことも円売り・ドル買いを促した。

その後、中旬から下旬にかけてもドル高基調は継続し、この間の一連の経済指標が米景気の拡大を示唆する内容だったことや12月に米連邦準備理事会(FRB)が利上げに踏み切るとの見方が強まったこともこの基調を後押しした。21日には\$1=111.95円、24日には\$1=113.43円、25日には\$1=114.78円をつけ、3月中旬以来8か月ぶりの円安・ドル高水準となった。

しかし、28日には石油輸出国機構(OPEC)の総会で減産合意に至るのか、やや不透明感が強まったことや急速な上昇を見せたトランプ相場へ一服感が広がったことで、円が反発、29日には\$1=112.90円をつけたが、翌30日には\$1=113.42円となって越月した。

対ユーロでも、円はドルと同じように、月初の€1=115円水準から€1=120円水準へ続落した。

【国内】

1. 建値推移

11月の国内金山元建値は1日に4,328円/g(グラム)でスタート、上旬はほぼ月初水準で持ち合うものの、8日に米大統領選の結果による極端なドル安、海外相場高からやや上昇し10日には4,389円まで反発した。しかし、この基調は長くは続かず、トランプ相場といわれる株高、ドル高が進展すると建値は価格水準を切り下げ、概ね4,300円台前半での小動きとなった。海外相場が続落するも、同時にドル高による円安から、上下の振幅幅はかなり狭いものとなった。30日には海外相場が弱含むなか、

建値は 4,326 円と 4,300 円台を保って越月した。

2. 金地金生産・出荷・生産者在庫(2016年10月分=平成28年10月分)

生産 : 9,640 kg (前月比 5.1%増、前年比 10.4%増)

出荷 : 8,066 kg (前月比 17.5%減、前年比 16.7%減)

在庫 : 5,714 kg (前月比 38.0%増、前年比 26.2%増)

(生産、出荷、在庫の出典は経産省生産動態統計調査)

10月の生産は前月比、前年同月比とも2か月ぶりのプラス。出荷は前月に引き続き前月比大幅減、前年同月比も3か月ぶりの減。低調な需要状態が続く。在庫は出荷減から前月比、前年同月比とも2か月ぶりの増。

銅

【海外】

2016年11月のLME銅相場は前月下旬からの上昇基調を引き継ぎ、月初の\$4,800/t圏から7日には4月下旬以来となる\$5,000台に乗せ、米大統領選挙でトランプ候補の勝利が判明した9日以降は上げ足を早め、11日には昨年6月以来となる\$5,900をつけた。その後いったん反落したが、下旬にかけて再び\$5,900圏へと反騰した。

米大統領選挙戦は8日の投開票日まではクリントン候補有利で、保護貿易主義者のトランプ候補不利との見方が銅相場を押し上げた。また、米国の経済指標やLME在庫の減少も好感された。米国の第3四半期労働生産性は2年ぶりの大幅な上昇、9月の製造業受注は3か月連続の増加、10月最終週までの新規失業保険申請件数は87週連続で300千件割れとなり、株価もクリントン候補勝利を見越して上昇基調を辿った。中国経済も10月の製造業購買担当者景気指数(PMI)が2014年7月以来の高水準となった。

ところが、米大統領選挙は予想に反してトランプ候補が勝利した。その直後、株価は世界的に急落したが、その後はトランプ候補の1兆ドルのインフラ投資計画や1,400億ドルの減税計画などの“トランプノミクス”がはやされて反発に転じた。メタル市場でもリフレーション局面に乗り遅れまいとした投機筋がポジションをロングにシフトしたことから全面高となった。とくに銅は中国系ファンドにより急騰の引き金が引かれ、大統領選挙の結果や銅相場の動向を読み間違えた弱気筋のショートカバー買いが相場急騰を加速した。

銅相場はその後いったん調整局面入りした。17日にはイエレン米連邦準備制度理事会(FRB)議長が議会証言で12月利上げの可能性を強く示唆したことから、ドル

は対通貨バスケットで 14 年ぶりの高値に急騰した。これに対して、中国人民銀行は人民元の対ドル中心レートを 21 日にかけて 8 年ぶりの安値となる 6.8985 元へと 12 営業日連続で引き下げた。一方、米株価は続伸し、22 日には史上初の 19,000 ドル台に乗せた。

さらに、30 日には、石油輸出国機構(OPEC)総会で原油の減産が最終合意された。減産合意は 2008 年 12 月以来で、非加盟国のロシアも同調する見通し。これを受けて、NYMEX 原油先物 1 月限は前日比 9.3%高の\$49.44/bbl.と 2 月以降では最大の上昇幅となった。銅独自の要因としては、LME 在庫が 9 月末の 379 千tから 11 月 30 日現在 237 千tまで減少した。このため、銅相場はドル高にもかかわらず 28 日には\$5,935.5 まで急伸し、30 日は\$5,740 で越月した。

供給障害要因としては、ハドベイミネラルズが 11 月 8 日、コンスタンシア銅鉱山(ペルー)の操業を中断したと発表した。地元住民と中央政府、地方政府、ハドベイが締結した社会協力協定に不満を持つ一部の地元住民がオープンピットに不法侵入したことによるもの。しかし、同社は 11 日、ペルー政府の調停により平和裏に問題が解決し、12 日までには正常操業を回復した。

フリーポートマクモランのテンケフングルメ銅コバルト鉱山(コンゴ民主共和国)で 11 月 13 日、地滑りが発生し、13 人が死亡した。採掘が放棄されたピットが豪雨による洪水に見舞われたことによるもの。同鉱山では 5~10 千人の鉱山労働者が違法採掘している。コンゴ南東部では数万人が零細鉱山に依存しており、鉱山会社の鉱区内に侵入する事例や違法採掘に伴う死亡事故が多発している。

アングロアメリカンのロスブロンセス銅鉱山(チリ)は 11 月 14~17 日と 11 月 26 日~12 月 1 日の間、労働条件に不満を持つ下請け企業労働者に不法に占拠され、この間、操業が全面停止された。アングロは下請け企業とともに法的措置を取った。

一方、リオティントケネコットは 11 月 17 日、ビンガムキャニオン銅鉱山(米)が全面復旧し、銅生産が増加していることを明らかにした。2013 年 4 月にオープンピットで崩落した土砂 165 百万tの撤去作業が最終的に完了した。今年第 3 四半期の生産量は前年同期比 63%増の 36 千t、1~9 月累計は 62%増の 108 千t。

需給状況については、2016 年 1~8 月の世界の銅鉱石生産は前年同期比 5.8%増 13,317 千t、地金生産は 3.1%増の 15,491 千t、消費は 3.8%増の 15,582 千t、この結果、地金需給バランスは前年同期の+10 千tから▲91 千tへと供給不足に転じた。報告在庫は 9.7%減の 1,4137 千t、在庫/消費比率は 3.3 週間から 2.9 週間に低下した。

鉱石生産の内訳は精鉱が 7.5%増加、SXEW は 0.5%減少した。国別には過去 2 年間に新規稼働と能力増強のあったペルーが 45%増加したほか、カナダと米国が回復し、メキシコは能力増強により、モンゴルはオユトルゴイ鉱山の立ち上げにより増加した。しかしながら、チリは 4%減少し、コンゴ民主共和国は減産により 7%減少

した。地域別にはアメリカが7%、アジアは9%、オセアニアは7%増加したが、アフリカは4%減少し、ヨーロッパは横ばいであった。鉱山稼働率は84.2%から85.3%に上昇した。

地金生産の内訳は一次生産が2.5%、二次生産は5.5%増加した。国別には中国が7%、米国は14%増加、メキシコはSXEW生産能力の増強により19%増加した。コンゴ民主共和国とザンビアは減産のため減少した。地域別にはアメリカが5%、アジアは6%、オセアニアは10%増加、アフリカは13%、ヨーロッパは3%減少した。精製工場の稼働率は82.6%から83.4%へとほぼ横ばいとなった。

消費は中国の見掛け消費が7.5%増加した。ネット輸入が8%増加したことによるもの。しかしながら、ネット輸入は1~6月平均の312千tから7月は176千t、8月は175千tと2013年4月以来の低水準にとどまった。EU、米国、日本はほぼ横ばい。地域別にはヨーロッパが2.5%、アジアは6%増加(中国を除くアジアは1.5%増加)、アフリカは11%、アメリカは4.5%減少、オセアニアは横ばいであった。

【国内】

1. 建値推移(千円/t)

11/1 550 11/7 560 11/10 620 11/15 650 11/22 660
11/28 720 = 平成27年7月以来の高値

2. 銅地金生産・出荷・在庫(2016年10月分=平成28年10月分)

生産 : 126,909t (前月比 0.3%増、前年比 16.7%増)
出荷 : 128,174t (前月比 6.6%減、前年比 5.4%増)
在庫 : 98,373t (前月比 0.6%減、前年比 10.9%増)

(生産の出典は経産省生産動態統計調査、出荷・在庫は日本鉱業協会受払)

平成28年(2016年)10月の銅地金生産は前月比0.3%増、前年同月比16.7%増の126.9千tと前月比は3か月ぶり、前年比は4か月連続の増加となった。出荷は前月比6.6%減、前年比5.4%増の128.2千tで前月比が再び減少、前年比は2か月連続の増加となった。内訳は内販が前月比7.1%増、前年比0.2%増の81.8千t、輸出は46.4千tで前月比は23.8%減、前年比は16.0%増。内販のうち電線向けは前年比5.2%減の47.9千tで3か月ぶりの減少、伸銅品向けは11.6%増の30.6千tで5か月連続の増加。在庫は前月比0.6%減、前年比10.9%増の98.4千tと前月比が2か月連続の減少、前年比は13か月ぶりの増加となった。

3. 需要部門別動向

日本電線工業会によれば、平成28年10月の銅電線出荷は前月比5.5%減、前年同月比は10.8%減の56.8千t(推定)と3か月ぶりの減少となった。うち内需は前

年比 10.0%減の 55.5 千tで 3 か月ぶりの減少、輸出は 35.4%減の 1.3 千tで 3 か月連続の減少。内需の部門別には、自動車は 6 か月、その他内需が 4 か月連続の増加となったが、建設電販は 8 か月、通信と電力は 2 か月連続の減少、電気機械は 3 か月ぶりに減少に転じた。

日本伸銅協会によれば、平成 28 年 10 月の伸銅品生産は前月比 1.6%減、前年同月比 1.9%増の 66.4 千t(速報)と前年比は 6 か月連続の増加となった。うち内需向けは前年比 2.3%増の 55.2 千tで 3 か月連続、輸出は 0.0%増の 11.2 千tで 5 か月連続の増加。品種別には前年同月比で、半導体、コネクタ、自動車端子向けの銅条が 6 か月、自動車端子向けの黄銅条は 3 か月、コネクタ向けの青銅板条は 2 か月連続の増加となったが、エアコン向けの銅管は 3 か月ぶりに減少に転じた。

鉛

【海外】

2016 年 11 月の LME 鉛相場は月初の\$2,000/t 圏から米大統領選挙でトランプ候補の勝利が判明した 9 日には\$2,100 台に乗せ、月末にかけて 2011 年 9 月以来となる\$2,400 圏へと上昇している。

米大統領選挙戦は事前の予想ではクリント候補が有利で、保護貿易主義者のトランプ氏は不利との見方が優勢であった。このため、株価やメタル相場はクリントン候補の勝利を織り込んで堅調に推移していた。ところが、予想に反してトランプ候補が勝利したこと、株価はいったん世界的に急落した。しかし、その後はトランプ候補の 1 兆ドルのインフラ投資計画や 1,400 億ドルの減税計画などの“トランプノミクス”がはやされて反発に転じた。これを受け、メタル市場も全面高となり、鉛相場も昨年 5 月以来となる\$2,100 台に乗せた。この間、米国の製造業受注や雇用統計の好調持続、中国の製造業景気指数(PMI)の改善なども鉛相場の下支え要因となった。

17 日にはイエレン米連邦準備制度理事会(FRB)議長が議会証言で 12 月利上げの可能性を強く示唆したこと、ドルは対通貨バスケットで 14 年ぶりの高値に急騰した。一方、米株価は続伸し、22 日には史上初の 19,000ドル台に乗せた。さらに、30 日には、石油輸出国機構(OPEC)総会で原油の減産が最終合意された。減産合意は 2008 年 12 月以来で、非加盟国のロシアも同調する見通し。これを受けて、NYMEX 原油先物 1 月限は前日比 9.3%高の\$49.44/bbl.と 2 月以降では最大の上昇幅となった。こうしたなか、メタル市場もドル高にもかかわらず全面高となり、鉛相場は 2011 年 9 月以来となる\$2,400 圏へと上昇した。

価格急騰を受けて、上海先物取引所(SHFE)は 11 月 30 日、過度の投機取引を防止するため、鉛、亜鉛取引に 12 月 1 日から割当制度を導入すると発表した。割当対

象は先物取引を行っていない企業、または、17年1月限、2月限がオープンポジションの企業で、割当量は亜鉛が1,500ロット、鉛は1,000ロット。ヘッジ取引には新規則は適用されない。

供給障害要因のうち、中国湖南省花垣縣湘西トゥチャ族ミャオ族自治州の鉛亜鉛鉱山は11月に入って徐々に操業を再開している。同自治州政府は8月15日、国家安全生産監督管理総局(SAWS)の鉱業浄化要請に基づきすべての鉛亜鉛鉱山を閉鎖したが、労働災害防止対策を実施した鉱山の操業再開が許可された。同自治州には鉛亜鉛鉱山が26ヵ所所在し、鉛亜鉛埋蔵量は6.5百万t。

需給状況については、国際鉛亜鉛研究会によれば、2016年1～9月の世界の鉛鉱石生産は前年同期比9.8%減の3,306千t、地金生産は7,986千tで横ばい、消費は2.0%減の7,948千tとなった。地金需給バランスは前年同期の▲37千tから+38千tへとほぼバランス推移した。

鉱石生産はアフリカが5.7%増加したが、ヨーロッパは横ばい、アジアは7.8%、アメリカは3.8%、オセアニアは35.5%減少した。地金生産はアメリカが2.3%、オセアニアは14.0%増加したが、ヨーロッパ、アフリカは横ばい、アジアは3.1%減少した。消費はアメリカが2.8%、ヨーロッパは9.6%増加したが、アジアは6.4%、アフリカは8.6%、オセアニアは23.1%減少した。9月末の地金の報告在庫は前年同月比6.6%増の489千t、在庫/消費比率は2.3週間から2.4週間へとほぼ横ばい。

中国は鉱石生産が8.1%減の1,561千t、鉛精鉱輸入は17.8%減の558千t、地金生産は9.1%減の3,193千t、地金のネット輸出は35千tから12千tに減少、この結果、見掛け消費(生産+輸入-輸出±上海取引所在庫)は10.2%減の3,169千tとなった。

【国内】

1. 建値推移(千円/t)

10/3	270	10/18	265	11/1	274	11/10	281	11/16	290	11/24	303
12/1	320										

11月はLME鉛相場が月初の\$2,000/t水準から月末の\$2,450水準へ上昇したことから、建値も大幅に続伸、11月末には303千円/tをつけ前年6月以来の300千円台回復となった。

2. 鉛地金生産・出荷・生産者在庫(2016年10月分=平成28年10月分)

生産	: 17,170t	(前月比 4.4%増、前年比 10.1%増)
出荷	: 18,559t	(前月比 4.7%増、前年比 2.1%減)
在庫	: 22,921t	(前月比 6.0%減、前年比 11.4%減)

(生産の出典は経産省生産動態統計調査、出荷・在庫は日本鉱業協会受払)

10月の生産は細倉製錬所の定修が月末にあるも、神岡製錬所の定修明けにより、2か月ぶりの前月比増、前年同月比も3か月連続の増。出荷は蓄電池の需要期入りから前月比増だが、前年同月比では3か月ぶりの減。在庫は出荷増から前月比2か月連続の減、前年同月比も13か月連続の減。

3. 需要部門動向

10月の自動車生産台数は前年同月比3.9%減の781,165台となり、3か月ぶりに前年同月を下回った。

その結果、乗用車は前年同月比3か月ぶりにマイナス、トラックも同2か月連続のマイナス、バスも同10か月ぶりのマイナスとなった。

10月の自動車輸出台数は前年同月比1.7%増の423,480台となり、3か月連続で前年同月を上回った。

一方、10月の二輪車生産台数は前年同月比21.7%増の57,208台と6か月ぶりで前年同月を上回った。

(一社)電池工業会の調査によると、9月の自動車用鉛蓄電池のメーカー販売個数は、新車用、補修用、輸出用を併せた総合計で2,022千個(前年同月比2%減)と再び低下したが、自動車用以外の鉛蓄電池は668千個(同5%増)と2か月連続で増加した。その結果、鉛蓄電池の出荷はトータルで2,690千個(同±0%)と横ばいだった。

鉛関連製品生産統計

		9月	10月(速報値)
自動車	数量(台)	840,990	781,165
	前年同月比(%)	101.5	96.1
		8月	9月
自動車用鉛蓄電池	数量(鉛量t)	12,982	16,102
	前年同月比(%)	101.8	103.7

(出所:(一社)日本自動車工業会, 経済産業省生産動態統計調査)

亜鉛

【海外】

2016年11月のLME亜鉛相場は月初の\$2,400/t圏から月末にかけて\$2,900圏へと急伸した。

米大統領選挙戦は事前の予想ではクリント候補が有利で、保護貿易主義者のトラ

ンプ氏は不利との見方が優勢であった。このため、株価やメタル相場はクリントン候補の勝利を織り込んで堅調に推移していた。ところが、予想に反してトランプ候補が勝利したことから、株価はいったん世界的に急落した。しかし、その後はトランプ候補の1兆ドルのインフラ投資計画や、1,400億ドルの減税計画などの“トランプノミクス”がはやされて反発に転じた。これを受け、メタル市場も全面高となり、亜鉛相場も2011年2月以来となる\$2,500台に乗せた。この間、米国の製造業受注や雇用統計の好調持続、中国の製造業景気指数(PMI)の改善なども亜鉛相場の下支え要因となった。

17日にはイエレン米連邦準備制度理事会(FRB)議長が議会証言で12月利上げの可能性を強く示唆したことから、ドルは対通貨バスケットで14年ぶりの高値に急騰した。一方、米株価は続伸し、22日には史上初の19,000ドル台に乗せた。さらに、30日には、石油輸出国機構(OPEC)総会で原油の減産が最終合意された。減産合意は2008年12月以来で、非加盟国のロシアも同調する見通し。これを受けて、NYMEX原油先物1月限は前日比9.3%高の\$49.44/bbl.と2月以降では最大の上昇幅となった。こうしたなか、メタル市場もドル高にもかかわらず全面高となり、亜鉛相場は28日にかけて2007年9月以来となる2,900乗せへと急伸し、30日は\$2,700台で越月した。

価格急騰を受けて、上海先物取引所(SHFE)は11月30日、過度の投機取引を防止するため、鉛、亜鉛取引に12月1日から割当制度を導入すると発表した。割当対象は先物取引を行っていない企業、または、17年1月限、2月限がオープンポジションの企業で、割当量は亜鉛が1,500ロット、鉛は1,000ロット。ヘッジ取引には新規制は適用されない。

供給障害要因のうち、中国湖南省花垣縣湘西トゥチャ族ミャオ族自治州の鉛亜鉛鉱山は11月に入って徐々に操業を再開している。同自治州政府は8月15日、国家安全生産監督管理総局(SAWS)の鉱業浄化要請に基づきすべての鉛亜鉛鉱山を閉鎖したが、労働災害防止対策を実施した鉱山の操業再開が許可された。同自治州には鉛亜鉛鉱山が26か所所在し、鉛亜鉛埋蔵量は6.5百万t。

需給状況については、国際鉛亜鉛研究会によれば、2016年1~9月の世界の亜鉛鉱石生産は前年同期比3.1%減の9,685千t、地金生産は1.0%減の10,144千t、消費は4.0%増の10,395千t、地金需給バランスは前年同期の+250千tから▲251へと供給不足に転じた。

鉱石生産はアジアが6.4%、アフリカは5.5%増加したが、ヨーロッパは横ばい、アメリカは2.8%、オセアニアは49.7%減少した。地金生産はアフリカが20.3%増加したが、アジアは横ばい、ヨーロッパは2.3%、アメリカは5.4%、オセアニアは7.3%減少した。消費はアジアが7.1%、ヨーロッパは1.5%、オセアニアは33.0%増加したが、アメリカは10.0%、アフリカは4.9%減少した。9月末の地金の報告在庫は前年同月比

13.2%減の 1,394 千t、在庫/消費比率は 6.0 週間から 5.0 週間へと低下した。

中国は鉱石生産が 17.2%増の 4,130 千t、亜鉛精鉱輸入は 42.5%減の 575 千t、地金生産は 5.3%増の 4,621 千t、地金のネット輸入は 54.6%増の 334 千t、この結果、見掛け消費(生産+輸入-輸出±上海取引所在庫/国家備蓄)は 10.6%増の 4,997 千tとなった。

【国内】

1. 建値推移(千円/t)

10/3	289	10/11	286	10/14	280	10/20	286	10/26	292	11/1	304
11/7	298	11/10	307	11/15	328	11/24	343	12/1	355		

11 月は LME 亜鉛相場が月初の \$2,400/t 圏から下旬の \$2,900 圏へ上昇したことで、同時期の円安基調とも相俟って続伸、300 千円/t 台を堅調に推移した。300 千円台回復は前年 6 月以来となった。

2. 亜鉛地金生産・出荷・生産者在庫(2016 年 10 月分=平成 28 年 10 月分)

生産 : 45,816t (前月比 12.7%増、前年比 5.4%増)

出荷 : 43,598t (前月比 2.8%減、前年比 10.1%減)

在庫 : 74,797t (前月比 3.1%増、前年比 11.9%増)

(生産の出典は経産省生産動態統計調査、出荷・在庫は日本鉱業協会受払)

10 月の生産は彦島製錬所の定修、安中製錬所の小トラブルがあるも、神岡製錬所の定修明けにより、2 か月連続の前月比増、前年同月比も八戸製錬所の生産増から 15 か月ぶりの増。出荷は内販、輸出とも冴えず、前月比減。なかなか停滞ムードが払拭できていない。出荷の前年同月比は二桁の大幅減で 12 か月連続のマイナス。在庫は出荷減から 4 か月ぶりの前月比増、前年同月比も 2 か月連続の増。

3. 需要部門動向

10 月の鉱工業生産指数は前月比 0.1%増、前年同月比 1.3%減の 98.5(季節調整済、2010 年=100 基準、速報値、以下同じ)となった。前月比は 3 か月連続のプラスで 2015 年 4 月以来 1 年 6 か月ぶりの水準。電子部品や自動車为好調だった。経産省は生産の基調判断を「緩やかな持ち直しの動き」に据え置いた。

10 月の業種別生産指数で前月の生産水準を上回ったのは、全 15 業種中 6 業種。電子部品・デバイス工業が前月比 4.6%上昇、輸送機械工業は同 0.6%上昇、金属製品工業は同 3.2%上昇した。

10 月の出荷指数は前月比 2.2%増の 98.5 と 2 か月連続でプラスとなったが、前年同月比は 1.8%減と 3 か月ぶりにマイナスとなった。

在庫指数は前月比 2.1%減の 108.6 と 2 か月連続で減少した。在庫率指数も前月

比 0.9%減の 113.9 と再び低下した。

大企業の生産見通しを示す製造工業生産予測指数では、11 月が前月比 4.5%の上昇、12 月は同 0.6%の低下を見込んでいる。

9 月の亜鉛めっき鋼板生産(次工程用消費を除く)は前年同月比 27 か月ぶりにプラスに転じたが、数量は 24 か月連続の 100 万 t 台割れ。

9 月の伸銅品生産量は 67,508t(確報値、対前年同月比+7.3%)(対前月比+11.8%)、2016 年(平成 28 年)5 月から 5 か月連続の対前年同月比プラスとなった。黄銅管、青銅棒線、洋白その他棒線を除く全ての品種が対前年比プラスとなった。銅条は 5 か月連続、銅管は 2 か月連続、黄銅棒は 5 か月連続のプラスとなった。また青銅板条が 17 か月振りにプラスに転じた。内需向けは 56,458t で 2 か月連続、輸出向けは 11,050t で 4 か月連続の対前年同月比プラスとなった。

黄銅製品では、黄銅条が 8,368t と前年同月比 2 か月連続のプラスとなった。また、黄銅棒は 16,153t で 5 か月連続の前年同月比プラスとなり、9 月としては 2010 年(平成 22 年)の 16,705t 以来の 16 千トン台となった。

亜鉛関連製品生産統計

		8 月	9 月
亜鉛めっき鋼板	数量(t)	855,504	896,709
	前年同月比(%)	98.6	100.7
黄銅製品	数量(t)	25,880	28,631
	前年同月比(%)	110.5	110.1
亜鉛ダイカスト	数量(t)	1,382	1,812
	前年同月比(%)	94.5	105.9
亜鉛華	数量(t)	3,827	4,794
	前年同月比(%)	114.3	98.5

(出所:経済産業省生産動態統計調査)